R6 実務経験のある教員等による授業科目

学　部	人　　間　　学　　部
学　科	人　間　教　育　学　科

Ｎｏ	科目区分	授業科目名称	単位	担当教員
1	基本教育	情報活用法Ⅰ	2	惠原　貴志
2	基本教育	情報活用法Ⅱ	2	惠原　貴志
3	基本教育	キャリア設計	2	稲葉　健太郎
4	基本教育	キャリア開発	2	稲葉　健太郎
5	基本教育	キャリア研究	2	稲葉　健太郎
6	基本教育	地域と政策	2	横江　信一
7	基本教育	いしのまき学	2	遠藤　郁子
8	専門教育	初等教科教育法（社会）	2	新福　悦郎
9	専門教育	社会	2	新福　悦郎
10	専門教育	小学校の外国語活動	2	根本　泉
11	専門教育	教育方法論	2	新福　悦郎
12	専門教育	教育相談の理論と方法	2	樋口　広思
13	専門教育	心理アセスメント基礎実習	2	樋口　広思
14	専門教育	臨床心理学概論	2	樋口　広思
15	専門教育	専門教養演習	2	奥山　勉

単位数合計	**30**

科目名	情報活用法Ⅰ
職名／担当教員	人間学部　教授　惠原　貴志
曜日／時限	火曜日 2時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　大学生活においては，レポートや論文の作成をはじめ，コンピュータ／ネットワークを用いて主体的に情報を活用する能力を身につけなければならない。この授業では，高校での教科「情報」を踏まえて，ワードプロセッサやWebブラウザ，電子メール等を使って情報活用能力とコミュニケーション能力を養うこと，また同時に情報モラルについて実践的に学ぶことを目標とする。授業は演習形式で行う。本講義は，情報活用の方法と態度を学ぶ第一歩としての，大切な講義として位置付けられている。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：－
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
　テーマ：メールによるコミュニケーションの方法，情報の検索と収集，日本語作文技術，文書作成の方法，プレゼンテーション資料作成の方法、情報モラルの習得

　到達目標：電子メール，Web検索，ワープロソフト、プレゼンテーションソフト等を活用できる能力，および情報モラルを身につけることである。

＜授業形態＞
　パワーポイントと配布印刷物を用いてソフトウェアの使用方法を説明したのち、各自の端末を用いて実習を行う。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）　本学の情報システムの利用法：ログイン／ログアウト，Windowsの利用法
（2）　本学での電子メールの使い方　ポータルへのログインとメールの送信
（3）　コンピュータ演習室のプリンタの使用方法
（4）　ワープロソフトを用いた文書の作成　（1）文書をキーボードで入力する、ファイルを保存する
（5）　ワープロソフトを用いた文書の作成　（2）文書の印刷、PDFファイルの作成
（6）　ワープロソフトを用いた文書の作成　（3）文書のページレイアウトの作成と調整
（7）　ワープロソフトを用いた文書の作成　（4）段組み、図の挿入を用いた文書の作成
（8）　ワープロソフトを用いた文書の作成　（5）縦書きの文書の作成と段組みの方法について
（9）　調査学習：情報セキュリティに関連する問題の具体例を検索し文章化する
（10）調査学習：情報セキュリティに関連する問題の具体例を検索、文章化し、印刷する
（11）プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成　（1）基本となるスライドの作成
（12）プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成　（2）スライドのデザインを考える
（13）プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成　（3）スライドの表現力を高める
（14）プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成　（4）プレゼンテーションの作成と印刷
（15）プレゼンテーションソフトウエアの操作

＜アクティブラーニングの取入れ状況＞
この科目は演習科目であるので、すべての回がアクティブラーニングに対応している。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　課題を回収後、多くの学生に共通の問題部分について解説を行う。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
　教科書：「例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版」，技術評論社
　参考書等　：　必要に応じて講義プリントを配付する。

成績評価方法・基準

　レポートの内容（60％）と受講時の実習に取り組む態度（40％）の総合評価により成績評価を行う。課題を数回与え，レポートを印刷あるいは添付ファイル形式で提出する。評価基準としては到達目標の達成度を重視する。レポートは提出期限を守ること。提出期限も評価対象である。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習　：　教科書を事前に熟読し、次回の学習内容を理解しておく。可能であればコンピュータを用いて予習する。（2時間）
　事後学習　：　授業で習得した知識を、コンピュータを操作し復習する。（2時間）

＜他科目との関連＞
「情報活用法Ⅰ」は，「情報活用法Ⅱ」と並立する科目である。この両科目を履修し，情報活用能力を身につけておくと，他科目でのレポート作成や情報検索，プレゼンテーション等の情報活用に生かすことができる。「情報活用法Ⅱ」は学科によっては選択科目であるが，履修することが望まれる。

担当教員へのアクセス

研究室：1号館3階1301研究室
メールアドレス：ehara@isenshu-u.ac.jp

その他

講義内容に関する質問、アプリケーションソフトの使い方に関する質問と回答は、コンピュータ室での演習の場で行う。

（実務経験のある教員による授業）
企業内で研究開発時の各種文書作成、情報活用の実務経験を活かし、大学での学習、研究における情報の活用法の観点から講義を行う。

科目名	情報活用法Ⅱ
職名／担当教員	人間学部　教授　惠原　貴志
曜日／時限	水曜日 5時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　大学生活においては，レポートや論文の作成をはじめ，コンピュータ／ネットワークを用いて主体的に情報を活用する能力を身につけなければならない。この授業では，前期の講義である「情報活用法Ⅰ」を踏まえて，データ分析などの情報活用能力とコミュニケーション能力を養うこと，また同時に情報倫理について実践的に学ぶことを目標とする。授業は演習形式で行う。本講義は，情報活用の方法と態度を学ぶ講義として位置付けられている。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：－
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
ビッグデータやAIによって駆動される現代の情報化社会の変化について理解し、基礎的な情報処理・データ分析能力・情報倫理を身に付けることができる。表計算ソフトを用いてデータ分析を行うことができる。

＜授業形態＞
　パワーポイントと配布印刷物を用いてソフトウェアの使用方法を説明したのち、各自の端末を用いて実習を行う。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）本学のPCを使ってのMicrosoft365の利用法、オンライン授業受講のスキル、情報倫理
（2）社会におけるデータ・AI利活用：社会で起きている変化，社会で活用されているデータ，データ・AIの活用領域，データ・AI利活用のための技術
（3）社会におけるデータ・AI利活用とデータ・AI利活用における留意事項：データ・AI利活用の現場，データ・AI利活用の最新動向，データ・AI利活用における留意事項，データを守るうえでの留意事項
（4）表計算ソフト1：データ入力、計算式の設定、表の整形
（5）表計算ソフト2：データの集計と比較：合計、代表値（平均値、中央値）条件をそろえた比較、数値処理の前後での比較
（6）表計算ソフト3：データの抽出、並べ替え、順位（オートフィルタなど）
（7）表計算ソフト4：グラフによる可視化（棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、ヒートマップ）・不適切なグラフ
（8）外部からの統計データの取得、表形式のデータ（csvなど）
（9）統計データ1：平均、中央値、分散、標準偏差、偏差値、データの分布、度数分布表、ヒストグラム、最頻値
（10）統計データ2：散布図、相関関係、相関係数行列（散布図行列）、相関と因果
（11）データ分析：データの種類（質的変数、量的変数）、時系列データ、データのクリーニング
（12）データ分析：標準偏差、単純集計、ピボットテーブルによるクロス集計
（13）データ分析：ヒストグラムの作成、2次元集計データの可視化、時系列データの可視化
（14）データ分析：集計結果の報告書の作成
（15）まとめ

＜アクティブラーニングの取入れ状況＞
この科目は演習科目であるので、すべての回がアクティブラーニングに対応している。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　課題を回収後、多くの学生に共通の問題部分について解説を行う。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
　教科書：資料を配布するほか、講義中に指示する。
　参考書：「例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版」，技術評論社
　「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」，講談社

成績評価方法・基準

　レポートの内容（60％）と受講時の実習に取り組む態度（40％）の総合評価により成績評価を行う。課題を数回与え，レポートを印刷あるいは添付ファイル形式で提出する。評価基準としては到達目標の達成度を重視する。レポートは提出期限を守ること。提出期限も評価対象である。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習　：　教科書を事前に熟読し、次回の学習内容を理解しておく。可能であればコンピュータを用いて予習する。（2時間）
　事後学習　：　授業で習得した知識を、コンピュータを操作し復習する。（2時間）

＜他科目との関連＞
「情報活用法I」は，「情報活用法II」と並立する科目である。この両科目を履修し，情報活用能力を身につけておくと，他科目でのレポート作成や情報検索，プレゼンテーション等の情報活用に生かすことができる。「情報活用法II」は学科によっては選択科目であるが，履修することが望まれる。

担当教員へのアクセス

研究室：1号館3階1301研究室
メールアドレス：ehara@isenshu-u.ac.jp

その他

本授業は，石巻専修大学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの対象科目である。
この教育プログラムは，文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に申請予定である。

企業内で研究開発時の各種文書作成、情報活用の実務経験を活かし、大学での学習、研究における情報の活用法の観点から講義を行う。（実務経験のある教員による授業）

科目名	キャリア設計
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	水曜日 2時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　本科目の目標は、自己を知り、社会を知ることで、各自が自分にとって望ましい生き方・働き方はどのようなものであるかを自覚的に捉えることにある。具体的には、社会人・職業人として自立していくうえで必要とされるのはどのような「力」であり、それをどのように生かしていけばよいのかを学ぶとともに、さまざまな課題学習をとおして自己を理解し、大学生活の目標設定の方法と将来設計のための手法を身に付ける。
　なお授業は、それぞれのテーマごとに課題解決的な演習や学内外から講師を招いての講義とするが、その学習内容に応じてアクティブラーニングやコミュニケーションスキルアップのための各種トレーニングを取り入れる。

＜DPとの関連＞
1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

[授業の方法]
＜授業形態＞
　パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式ですすめる。各クラスに分かれる場合は、グループワークや発表などの演習を行う。なお、外部講師からの講話の後は振り返りシートを書かせ、講義内容の定着を図る。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス：講義の約束・進め方及び講義内容を確認する。＜自己紹介カード＞
（2）自己理解へのトライ：自己の特性を知り、進路について考える。
（3）大学生活を知ろう：自己理解、高校生と大学生の違いを知る。
（4）大学生活の目標（座談会）:学部代表学生6名からそれぞれの目標を発表してもらう。＜振り返りシート1＞
（5）演習1：振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表し合う。
（6）演習2：ディスカッションを基に、大学生活の目標を設定し、レポートにまとめる。＜課題レポート1＞
（7）社会人に必要な力を知ろう：石巻専修大学OB・OG3名による座談会。＜振り返りシート2＞
（8）演習3：演習の手順についてパワーポイントを用いて説明した後、各クラスに分かれて演習を行う。
（9）演習4：社会人に必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。
（10）演習5：班ごとに発表し合い、社会人に必要な力をレポートにまとめる。＜課題レポート2＞
（11）キャリアをデザインしていくために必要な力：石巻地域で活躍している3名の鼎談。＜振り返りシート3＞
（12）振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表を行う。
（13）演習6：キャリアをデザインしていくために必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。
（14）演習7：各班でまとめたものを班ごとに発表し合う。
（15）キャリア設計の講義を振り返り、大学生活をデザインする。＜課題レポート3＞

※1　演習やアクティブラーニングを取り入れるため、サポート教員を配置する。
※2　サポート教員は、それぞれのクラスを掌握し、出欠確認やレポートの点検評価、演習等の助言に当たる。

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　講話等の振り返りでグループワークやグループ発表を適宜取り入れる。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　講義ごとに振り返りシートや課題レポートを書かせる。振り返りシートは演習の参考にするため、評価後にできるだけ早く返却する。また、ベストシートやベストレポートを適宜紹介する。

教科書／参考書

＜教 科 書＞：使用しない。
＜参考書等＞：講義ごとに資料を配布する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
平常の学習状況(20%)、振り返りシートや課題レポート(60%)、演習・発表内容(20%)等により総合的に評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習：単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料をもとに予習復習を行うこと。特に、レポート課題については、図書館やインターネットを活用し、自分の言葉でまとめるようにすること。（2時間）
　事後指導：授業終了後、その内容を振り返り、自分の考えをまとめる。（2時間）

＜科目の位置づけと他科目との関連＞
「キャリア設計」は、キャリア教育の土台になるので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の事業も併せて受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料のみならず、自分で調べた資料を整理してファイルしておくこと。

＜オフィスアワー＞

相談は随時受け付けます。

（実務経験のある教員による授業）
オムニバス形式で多様な企業や本学OB・OG等を講師に招き、実務経験に沿った助言を行っている。

科目名	キャリア開発
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	金曜日 1時限
期　間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　社会人として豊かな職業人生を歩んでいくためには自己理解と社会・職業理解が必須である。また、大学生にとってキャリアとは就職活動のみを指すのではなく、人生そのものについて考え、実践していくものである。よって、在学中または卒業後に豊かなキャリアを歩んでいくために次の事項を中心に授業を構成する。
・自己のキャリアを体系的にデザインするためのキャリアに関する諸理論を学ぶ。
・就職活動における自己理解と業界・職業分析の必要性と方法を学ぶ。
・ビジネス現場で求められるマナーについて学ぶ。
・具体的な卒業後のキャリアの事例について学ぶ。

　前半は主に講義を通してキャリアに関する諸理論や自己理解、業界・職業研究の方法について学ぶ。また、実際に企業が抱えている課題について解決を試みる実習も行う。後半にはゲストスピーカーを招き、企業の現場の話題を提供してもらうとともに、学生に対してどのように考えているのかについて講義をしてもらう。

＜DPとの関連＞
1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

＜到達目標＞
・自己分析と業界・職業研究をすることができるようになる。
・社会人に必要な基礎力とは何かを理解する。
・ゲストスピーカーの話を聞くことで企業の現場について知ることができる。

[授業の方法]
＜授業形態＞
講義形式で行う。授業は通年で15回とする。予定表に従って講義に参加してもらうことになる。講義は主に担当教員の他、外部講師やゲストスピーカーが担当することもある。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス
（2）キャリアとは何か・社会人基礎力について
（3）キャリアを考えるための発想法
（4）就職活動の両輪
（5）働き方を知る
（6）自己分析の実践
（7）課題解決能力を身につける①
（8）課題解決能力を身につける②
（9）課題解決能力を身につける③
（10）キャリアインタビュー①（ゲストスピーカー）
（11）キャリアインタビュー②（ゲストスピーカー）
（12）キャリアインタビュー③（ゲストスピーカー）
（13）キャリアをデザインする①
（14）キャリアをデザインする②
（15）まとめ

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
キャリア開発ではグループワークを取り入れている。他者との交流を通して自己理解を深める。また、インターンシップや就職活動、就業後の活動に向けた実践的なワークを実施する。ポスターやPowerPoint等を使用したプレゼンを行うこともある。

＜課題に対するフィードバック方法＞
講義の振り返り用のレポートを提出し、それについてフィードバックを行う。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
　教科書：講義で指定する。
　参考書等：講義で指定する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
試験は行わない。
（2）試験以外の評価方法
レポートによる評価を行う。
（3）成績の配分・評価基準など
平常の学習状況（20%）、事前学習・事後学習・レポート（80%）等により総合的に評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習：授業で配布された参考資料をもとに予習復習を行い次の授業の準備をしておくことが望ましい。キャリアインタビューにおいては就職資料室やインターネットを活用し、業界や業種、職種等について知りたいことを調べ質問できるようにしておくことが望ましい。（2時間）

事後学習：自己分析や職業・業界研究を個人で進める。（2時間）

＜他科目との関連＞
1年次で学習した「キャリア設計」を踏まえ、3年次の「キャリア研究」つながるものである。キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと、また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の行事にも併せて参加、受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

＜オフィスアワー＞
相談は随時受け付けます。

（実務経験のある教員による授業）
キャリア教育に関する外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育を行う。

科目名	キャリア研究
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	木曜日 4時限
期　間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
キャリア教育の仕上げ段階として、実践的なノウハウや実例を中心に各界の専門家によるオムニバス形式の授業である。
自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

＜到達目標＞
将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に着ける。

[授業の方法]
＜授業形態＞
進路ガイダンスへの参加及び企業が行う就業体験への参加を以て授業とする。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）就職活動の心構え、各種手続き、情報収集法
（2）履歴書・エントリーシート作成講座
（3）自己分析講座
（4）業界・企業・職種研究のノウハウ
（5）社会や会社の常識
（6）社会人に必要なビジネスマナー
（7）好印象を与える身だしなみ、リクルートファッション
（8）一般試験（SPI）対策講座
（9）面接対策講座①　採用面接を受ける心構え
（10）面接対策講座②　グループディスカッションに備えて
（11）企業の採用担当経験者による「来て欲しい人物像」
（12）本学卒業生による業界、職種の事例紹介
（13）就業体験の解説
（14）就業体験
（15）就業体験発表会
上記の授業計画は講師の都合等で順序が前後することがある。また、この他にも授業の一環として就業体験の①受入先との調整、②申込み書類の添削指導、③必要に応じ事前研修、④発表会の準備を行うことがある。

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
就業体験として企業や地方自治体等の組織で各種の体験を積んでもらう。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回交替で別な講師が講義するため、各講義における質問等は講義修了後に担当講師が受け付ける。　全体的なスケジュールやテーマの選択に関しては担当教員（就職指導部長）に相談してほしい。

教科書／参考書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書として、一般的な就職支援書籍（SPI攻略本や社会人マナー）の中から気に入ったものを持っていると就職活動の助けになる。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
・講座形式での平常の学習状況
・受講後のレポート
・就業体験の内容
・就業体験発表会でのプレゼン内容
により総合的に評価する。
ただし、就業体験に参加を希望したものの実施先企業等の都合で実現できなかった場合には救済措置を考慮する。

履修上の留意点

＜準備学習＞
・講座形式の際は特に準備を要しないが、高い意識で望むこと。
・就業体験の際は事前に就業先について十分に研究して望むこと。
＜事後学習＞
・講座を受講後にレポートを提出いただく。内容は毎回指示する。
・就業体験では修了後にプレゼン資料を作り発表いただく。
＜科目の位置づけと他科目との関連＞
・キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。
・自分の適性や将来の目標について考える機会であるので、何事も主体的に取り組むことが望まれる。このため、これまで学習した「キャリア設計」・「キャリア開発」の内容を復習しておくことが望ましい。
＜就業体験＞
・就業体験に参加する場合には、しっかりと事前準備し望むこと。

・就業派遣先での無断欠席や遅刻など迷惑となる行為は厳禁。
・就業派遣先や日程の決定は、個別に指導、調整する。
・学外での行動は安全に最大限の注意を払うこと。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

＜オフィスアワー＞
　相談は随時受け付けます。

（実務経験のある教員による授業）
就業体験の事前事後指導に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育と就業体験を行う。

科目名	いしのまき学
職名／担当教員	人間学部　教授　遠藤　郁子 ／ 人間学部　特任教授　横江　信一
曜日／時限	水曜日 2時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　皆さんが大学生活を送る石巻市は「SDGs未来都市」に選定され、2030年までに持続可能な地域社会を実現するためのさまざまな取り組みを行っている。この授業では、石巻市とその圏域について知り、ともによりよい地域社会を実現してゆくための課題を発見し、その一員としてできることは何かを思考し、主体的な行動につなげていくための学びの基盤を身につける。
　オムニバス形式で実務経験のある複数の外部講師などを招き、石巻圏域の歴史・文化・社会について、さまざまな角度から地域を理解するとともに、学生生活を通じて地域に貢献しながら地域の中で学ぶ方法を実践的に学ぶ。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：☆
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
(1)石巻圏の歴史・文化・社会についての基礎知識を身に付け、地域社会の課題について多面的に思考できる。
(2)大学の学びの中で有効に情報ツールを活用し、適切に情報収集・整理・発信することができる。

［授業の方法］
＜授業形態＞
　配布プリントやPowerPointなどを用いて、オムニバス講義形式で授業をすすめる。

＜講義計画＞
【対面科目】
1(4/10)　ガイダンスー「分からない」と向き合う
2(4/17)　「誇れる石巻を目指して～石巻に住んで良かったと思えるまちづくり～」　齋藤正美（石巻市長）
3(4/24)　東日本大震災からの大学の取組と地域社会連携　尾形孝輔（石巻専修大学事務課）
4(5/08)　東日本大震災の記憶と教訓の伝承　白須　肇（宮城県復興支援・伝承課）
5(5/15)　石巻と地域メディア　山口紘史（石巻日日新聞社）
6(5/22)　石巻の自然環境　平井和也（石巻・川のビジターセンター）
7(5/29)　石巻の歴史　横江信一（石巻専修大学人間学部）
8(6/05)　石巻市博物館ミュージアム・トーク　佐藤麻南（石巻市博物館）
9(6/12)　石巻で働く　斉藤誠太郎（まちと人と）
10(6/19)　石巻を遊ぶ―川開き祭について　毛利広幸(石巻商工会議所）
11(6/26)　石巻の街づくり　木村仁（街づくりまんぼう）
12(7/03)　石巻の行政　未定（石巻市政策企画課）
13(7/10)　面白がる力が人生を豊かにする　千葉均（ポプラ社）
14(7/17)　SDGs未来都市いしのまきの実現に向けて　阿部雄大（石巻市SDGs移住定住推進課）
15(7/24)　総括－石巻というフィールドでわたしたちができること

※　第2回（4/17）と第8回（6/5）は、「マルホンまきあーとテラス（石巻市複合文化施設）」訪問を予定しています。

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
・グループワークを行う。　・リアクションペーパーを使用する。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　毎時間の課題や学生からのコメントに対するフィードバックは、講義内やInCampusなどで適宜行う。

教科書／参考書

＜教科書＞なし
＜参考文献＞講義内やInCampusを通じて適宜紹介する。

成績評価方法・基準

（1）評価方法
＜成績評価方法・基準＞
(1)試験・テストについて
　試験は実施しない。
(2)試験以外の評価方法
　期末の課題レポート、および各回後に実施するリアクションペーパー・指定課題への取組を求める。
(3)成績の配分・評価基準等
　リアクションペーパー・指定課題（60%）、期末の課題レポート（40%）により総合的に評価する。講義の内容を理解し、的確にまとめ、与えられたテーマについて論じることができているかを基準とする。　平常点で評価。

履修上の留意点

事前学習：それぞれの講義テーマについての事前調査を行う。指定課題に取り組む。（120分）
事後学習：講義内容について復習し、講義テーマに関する指定課題に取り組む。（120分）

担当教員へのアクセス

遠藤研究室：3号館2階　3216研究室
メールアドレス：endo@isenshu-u.ac.jp

横江研究室：3号館2階　3221研究室

メールアドレス: yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

〈オフィスアワー（遠藤）〉
時間帯：金曜日　13：00～15：00
場所：遠藤研究室（3号館2階　3216研究室）

〈オフィスアワー（横江）〉
時間帯：金曜日　13：00～15：00
場所：横江研究室（3号館2階　3221研究室）

科目名	地域と政策
職名／担当教員	人間学部　特任教授　横江　信一
曜日／時限	火曜日 5時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　分権改革後の自治体は、自治体運営の主体としての責任が大きくなり、都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みのなかで、自らがもつ様々な資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この講義では、学外から招いた石巻圏域（石巻市、東松島市、女川町）の首長をはじめ自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観したうえで、まちづくりに当たって必要とされる地域住民と自治体の連携について理解する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識〔知識・理解〕：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力〔汎用的技能〕：－
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢〔態度・志向性〕：－
④創造的思考力と研究遂行能力〔統合的な学習経験と創造的思考力〕：☆
　〔☆：関連するもの、－：関連しないもの〕

＜到達目標＞
　テーマ：地域政策の現状把握と課題追究からまちづくりを展望する。
　到達目標：行政担当者による施策の解説を通して、地域政策の方法と現状を把握し、まちづくりに必要とされる地域住民と自治体の連携の在り方につい理解することができる。

［授業の方法］
＜授業の形態＞
　配布資料、パワーポイントを使用しながら行政担当者による基調講話（45分程度）を基に、グループディスカッションと組み合わせたグループワークによる演習を行う。授業計画通りに実施する予定にしているが、石巻市役所、東松島市役所、女川町役場の担当職員が講義を行うため、人事異動等から多少の変更が予想される。決定次第、内容については授業で使用する資料は教員が用意する。

＜授業計画＞
【対面科目】
(1) 講義の概要説明
(2) 地域政策と地方自治、議会と選挙管理委員会の役割
(3) 地域の現状と政策
(4) 石巻市の施政方針について（石巻市）
(5) 地域防災の取組について（石巻市）
(6) 石巻市の産業観光政策について（石巻市）
(7) 石巻市の地域政策のまとめ
(8) 東松島市の施政方針（東松島市）
(9) 東松島市のコミュニティ・スクール事業について（東松島市）
(10) 産業観光政策の事例（東松島市）
(11) 東松島市の地域政策のまとめ
(12) 女川町の施政方針（女川町）
(13) 産業観光政策の事例（女川町）
(14) 安全・安心なまちづくりについて（女川町）
(15) 女川町の地域政策のまとめ

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　グループ討議と全体発表を行う。グループワークとプレゼンテーションによるまとめを行う。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　基調講話を聞きながらメモを取り、グループ討議によって自分自身の考えを小レポート（振り返りシート）にまとめ、回収する。小レポート（振り返りシート）の回収後コメントを記入して返却する。

教科書／参考書

＜教　科　書＞：使用しない。
＜参考書等＞：授業で紹介する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　　試験は実施しない。
（2）試験以外の評価方法
　　授業中に小レポート（振り返りシート）を作成する。（全12回）
　　課題レポートを時間内に行う。（1回）
（3）成績の配分・評価基準等
　成績区分は、Sが100～90点、Aが89～80点、Bが79～70点、Cが69～60点、59点以下を不合格とする。出席を重視し、評価は授業への貢献度（60%）、授業中の小レポート（10%）と最終課題レポート（30%）であり、レポートや発表および平常の学習状況により総合的に評価する。講義を欠席した（する）学生は必ず理由を明示した欠席届を提出すること。欠席理由により、配慮することもある。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習： 石巻地域は東日本大震災からの復興過程である。新聞等には復興に関する記事が多々掲載されているので、特に注意を払ってほしい。また、授業の前には石巻市役所、東松島市役所、女川町役場（各部・各課）の仕事の内容をホームページで調べておくこと。（120分）
　事後学習：日頃から日常生活や社会に関する問題や課題、社会の動きについて情報収集を行うことが望ましい。（120分）

＜他科目との関連＞
　地域の行政施策を理解する上でいしのまき学、地域産業論、地域経営論と相互に関連する科目なので、これら3科目とも履修することが望ましい。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館2階3221
メールアドレス：yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

授業内容に関する質問は、授業中及び授業終了時に随時受け付ける。

＜オフィスアワー＞相談は随時受け付ける。

（実務経験のある教員による授業）
圏域行政等の課題に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。

科目名	臨床心理学概論
職名／担当教員	人間学部　兼任講師　樋口　広思
曜日／時限	木曜日 1時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　現代社会においては他者との関係性や災害などによって様々な心の問題が生じ、自己認識のゆがみや心理的障害に発展することが少なくない。この授業では、こうした問題を抱える人間に対する臨床心理学の基本的態度、精神病理に関する知見、代表的な心理療法の理論と技法、臨床心理学的地域援助の意義や方法について学ぶ。その際、本学が東日本大震災の被災地に立地していることから、自然災害による外傷後ストレス障害（PTSD）の心理についても取り上げ、その回復プロセスや基本的な臨床心理学的アプローチについても知識を得る。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：－
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
1.臨床心理学が介入する主要な心の問題を説明できる。
2.代表的な心理療法の理論と技法を説明できる。
3.臨床心理学的地域援助の内容や意義を理解している。

[授業の方法]
＜授業形態＞
主に講義形式であるが、臨床心理学的な基本的態度を実感するため受講者同士で簡単なロールプレイを行ったり、理解を深めるための動画やDVD教材を用いたりする。また授業終了後にミニッツペーパーに記載してもらい、本時における学びと気づきについて振り返りを行う。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）臨床心理学とは何か
（2）臨床心理学の歴史
（3）心理療法の理論と方法　1）精神分析療法
（4）心理療法の理論と方法　2）フロイトからの分派（ユング・アドラー）
（5）心理療法の理論と方法　3）フロイトからの分派（対象関係論）
（6）心理療法の理論と方法　4）クライエント中心療法
（7）心理療法の理論と方法　5）クライエント中心療法の実際
（8）心理療法の理論と方法　6）認知行動療法
（9）異常心理学の知見　1）統合失調症
（10）異常心理学の知見　2）気分障害（うつ病）
（11）異常心理学の知見　3）気分障害（双極性障害）
（12）異常心理学の知見　4）不安障害
（13）異常心理学の知見　5）強迫性障害
（14）異常心理学の知見　6）摂食障害
（15）異常心理学の知見　7）心的外傷後ストレス障害

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
　心理療法の基本的な技法については、個人またはペアによって簡単な実技も行いながら理解を深め、多様な感じ方や受け止め方があることを共有する。授業終了後に毎回ミニッツペーパーを課し、学習の理解度や気づきを記述する。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　授業終了後に記載してもらうミニッツペーパー回収後、質問や大事な気づきについては取り上げ、解説を行う。

教科書／参考書

教科書は使用しない。毎回資料を配付する。
参考書は授業時に紹介する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　試験を実施する。試験は、講義で得た知識をもとに、与えられたテーマについて論述するような内容を主とする。
（2）試験以外の評価方法
　毎時、ミニッツペーパーにより、学習の理解度をはかる。
（3）成績の配分・評価基準等
　試験の評価に加え、ミニッツペーパーによる学習の理解度や授業への貢献度等を総合的に判断し、評価する（試験60％、毎時のミニッツペーパー30％、授業への貢献度10％）。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：事前に配付された資料等を熟読し、不明な点や疑問点を明確にして臨むこと（2時間）。
事後学習：わかったこととわからなかったことを整理し、わからなかったことは自分で調べるなどして理解を深めること（2時間）。
＜科目の位置づけと他科目との関連＞
本授業の受講の前もしくは平行して「心理学概論」を履修していることが望ましい。

＜留意事項＞

授業内容の理解を深めるため、自分の過去の心的体験を振り返ったり、心の問題（精神病理）に関するDVD教材を視聴したりする。何らかの理由でこれらが心理的に苦痛であると感じる者は、あらかじめあるいは授業時に申し出ること。

※なお、新型コロナウィルスの感染状況に応じて、オンデマンド配信での授業を行う可能性がある。その際は適宜、in Campusを用いて連絡を行う。

担当教員へのアクセス

in Campusを利用してご連絡ください。

その他

＜実務経験のある教員による授業＞
「臨床心理士」としての実務経験から得た具体例を可能な範囲で示しながら、精神疾患の特性や心理状況について講義するとともに、アセスメントやカウンセリングの基礎的な方法については実践的な観点も取り入れる。

科目名	心理アセスメント基礎実習
職名／担当教員	人間学部　兼任講師　樋口　広思
曜日／時限	定時外 1時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　心理アセスメント（査定）とは、個人が抱える心理的問題の改善を目指すための介入方法を見い出すことを目的に、個人の能力や性格など心理的側面に関する情報（データ）を収集、分析することである。この授業では「心理学基礎実習」等で既習した知識技能をもとに、面接法、観察法、検査法などさらに広範なアセスメント方法を体験的に学ぶ。また、個人を深く理解するための検査の組み合わせ方や、心理状況を多面的、統合的に理解する方法も学ぶ。アセスメントは福祉・医療・教育・矯正分野等で広く実施されており、個人の将来の方向指針を決定する重要な過程と言える。従って、アセスメントにおける技能のみでなく、慎重かつ厳正な態度も身につける。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：－
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
1. 心理アセスメントの意義や実施にあたっての倫理について理解する。
2. 代表的な心理アセスメントの方法を習得するともに、それらの効用と限界も説明できる。
3. 目的に応じていかなる検査を組み合わせるべきか理解する。
4. 心理アセスメントによって得られた様々な情報から対象者を統合的に理解する方法を学ぶ。

[授業の方法]
＜授業形態＞
演習形式で実施する（個別もしくはペアでの実習や内的体験の交流を行いながら学習する）。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）心理アセスメントの意義と目的
（2）心理アセスメントの倫理と理論的基盤
（3）観察法　～観察の種類、形態、方法
（4）発達検査～乳幼児の発達検査
（5）発達検査～生活能力のアセスメント
（6）知能検査　1）概論
（7）知能検査　2）実施法
（8）知能検査　3）結果の解釈とまとめ方
（9）人格検査　1）質問紙法概論
（10）人格検査　2）実施法、結果の解釈とまとめ方
（11）人格検査　3）投映法概論
（12）人格検査　4）投映法（描画法）
（13）人格検査　5）投映法の結果の解釈とまとめ方
（14）テストバッテリィの意義と方法
（15）テストバッテリィの結果のまとめ方

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
　複数の心理検査の一部もしくは全部を個別あるいはペアで実施し、全体で感想や気づきを話し合いながら理解を深めていく。

＜課題に対するフィードバック＞
　提出したレポートは、次のレポート作成に生かせるよう、なるべく早く評価し、解説を行う。

教科書／参考書

教科書は使用しない。毎回資料を配付する。
参考書は授業時に紹介する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　試験は実施しない。
（2）試験以外の評価方法
　主要な検査について、体験後にレポートを課す。レポートでは、その検査の目的や方法、受検者としてあるいはテスターとしての配慮事項等への理解度を評価する。
（3）成績の配分・評価基準等
　レポート内容や授業への貢献度を総合的に判断し、評価する（レポート80%、授業時への貢献度20%）。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：事前に配付された資料を熟読し、不明な点や疑問点を明らかにして授業に臨むこと（1時間）。
事後学習：わかったこととわからなかったことを整理し、そのことも踏まえレポートを作成すること（3時間）。

＜科目の位置づけと他の科目との関連＞
事前に、もしくは並行して「心理学基礎実験」や「心理学基礎実習」を受講し、心理学の基礎的知識について学んでいることが望ましい。

担当教員へのアクセス

in Campusを利用してご連絡ください。

その他

＜実務経験のある教員による授業＞
「臨床心理士」としての実務経験から得た具体例を可能な範囲で示しながら、心理検査を中心とする心理アセスメントの方法については実践的な観点も取り入れる。

科目名	小学校の外国語活動
職名／担当教員	人間学部　教授　根本　泉
曜日／時限	水曜日 5時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　この授業では、小学校の「外国語活動」について、英語教育を実践するための知識や技術の習得を目標とする。また、ALTとの連携も視野に入れ、そこで必要とされる英語運用能力を涵養をする。具体的には、小学校中学年の児童が英語に慣れ親しみ、「聞くこと」、「話すこと」を中心に活動ができるように、絵本・歌・ゲーム等を含む教材の内容および授業の指導法についての研究を行う。

＜DPとの関連＞
　①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：－
　②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
　③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
　④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
　［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
　・児童が、「聞くこと」、「話すこと」を中心に英語に慣れ親しむための、教材や教授法についての知識を身につけている。
　・小学校での「外国語活動」の授業およびALTとの連携に必要とされる、基礎的な英語運用能力を身につけている。

[授業の方法]
＜授業形態＞
　基本的には、演習形式による授業であるが、一部講義も取り入れる。

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
　授業の最後に質疑応答の時間を設ける。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）　ガイダンス、Unit 1. ALT's First Visit to Minami Elementary School
（2）　Unit 2. Getting to Know Each Other
（3）　Unit 3. School Lunch
（4）　Unit 4. Play Time
（5）　Unit 5. The First English Class
（6）　Unit 6-7. Teaching Numbers 1, 2
（7）　Unit 8. Reflection
（8）　Unit 9. Activities at a Kindergarten
（9）　Unit 10. Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle
（10）　Unit 11. Making Onigiri and Curry
（11）　Unit 12. Making a Town Map
（12）　Unit 13. Introducing Japanese Culture
（13）　Unit 14. Evacuation Drills
（14）　Unit 15. Graduation
（15）授業内テスト及び総括

＜課題に対するフィードバック方法＞
　演習における発表時に、その都度、コメントを与える。

教科書／参考書

＜教科書＞：相羽千州子、他著『Hello, English—English for Teachers of Children—
こどもに教える先生のための英語—会話から授業まで—』（成美堂）

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』（開隆堂）

授業では、適宜、プリント等も配布する。

＜参考書＞：　なし

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　学期末試験を実施。
（2）試験以外の評価方法
　授業への積極的な参加およ中間レポートによる評価。
（3）成績の配分・評価基準等
　授業への積極的な参加（20%）、中間レポート（40%）、および学期末試験（40%）を総合して評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：　次の講義で扱うUnitを予め予習しておくこと。（120分）
事後学習：　疑問点について調べ、授業のポイントを整理しておくこと。（120分）

＜他科目との関連＞
　小学校高学年の教科「外国語」の教育内容を学ぶ科目である「外国語」と関連する科目である。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館1階 3117
メールアドレス：nemoto@isenshu-u.ac.jp

その他

＜オフィスアワー＞
3号館1階の3117研究室で、随時対応する。事前にメールで予約をするのが望ましい。

（実務経験のある教員による授業）
教育現場における実務経験活かし、小・中・高等学校における英語教育の連携を視野に、小学生の発達段階に沿った言語習得という観点から授業を行う。

科目名	初等教科教育法（社会）
職名／担当教員	人間学部　教授　新福　悦郎
曜日／時限	月曜日 4時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業の概要＞
　教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領の考え方に基づき、社会科教育の理論、実践と評価の学習及び年間指導計画、学習指導案作成、模擬授業を通して指導法を学ぶ。指導案の作成や模擬授業などをとおして、授業実践力も養成する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜授業の到達目標＞
到達目標：小学校社会科教育における教員として必要な資質・能力の基礎を身につける。
　　具体的な到達目標としては、
　　１　社会科の歴史や各学年の指導内容について理解する。
　　２　指導案、指導計画、評価等の基本について理解する。
　　３　最低限の授業実践力を身につける。

［授業の方法］
＜授業形態＞
　プロジェクターを活用した講義を中心にしながら、授業テーマに関するグループワークを行う。
＜授業計画＞
【対面科目】
第１回：実体験としての社会科教育の省察と授業ガイダンス
第２回：社会科の変遷１－戦後の社会系教科のあゆみ
第３回：社会科の変遷２－今日の社会科の状況
第４回：社会科の目標・内容と学力、「生きる力」と社会科の課題
第５回：学習指導案の作成（単元レベル）、学習過程とその指導（授業レベル）
第６回：地域調査活動
第７回：３・４年生の授業づくりと学習（飲料水の学習）
第８回：社会科における防災教育
第９回：５年生の授業づくりと学習１（日本の国土）
第10回：５年生の授業づくりと学習２（自動車工業）
第11回：６年生の授業づくりと学習（歴史）
第12回：指導案と模擬授業の実際１（教材と学習内容）
第13回：指導案と模擬授業の実際２（指導過程と問題提示）
第14回：指導案と模擬授業の実際３（発問と板書の工夫）
第15回：指導案と模擬授業の実際４とまとめ・評価

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　模擬授業、各テーマでのペア学習、グループ討議

＜課題に対するフィードバック方法＞
　リアクションペーパーについては次の授業で評価をつけて返却する。

教科書／参考書

＜教科書＞
「小学校学習指導要領解説　社会科編」

＜参考書・参考資料等＞
　小学校学習指導要領、「小学校社会科教科書」

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（１）試験・テストについて
　　第11回の授業の中で、60分程度のまとめテストを行なう
（２）試験以外の評価方法
　　学習指導案提出・模擬授業、リアクションペーパー（10回ほど）
（３）成績の配分・評価基準等
　　リアクションペーパー（20％）、学習指導案・模擬授業（40％）、テスト（25％）、授業の取組・貢献度（15％）

履修上の留意点

＜準備学習＞
　授業計画の学年に関する学習指導要領の記述を読んでくる。（2時間）
＜事後学習＞
　授業後に授業テーマについて感じ考え学んだことをリアクションペーパー（400字以上）にまとめる。（2時間）

＜他科目との関連＞
　　小学校教諭免許取得のための教職関連科目である。本授業は2年次後期に開講される「社会」と密接な関連があり、基礎的な部分となる知識内容や技能方法が含まれる。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館2階 3211号室
メールアドレス：shinpuku@isenshu-u.ac.jp

その他

＜オフィスアワー＞
時間帯：月曜日2，3限
場所：研究室3号館2階3211号室

（実務経験のある教員による授業）
中学校社会科教員としての実務経験を活かし、授業づくりにおける社会科教育の考え方や指導、技術習得も含めた観点から講義を行う。

科目名	社会
職名／担当教員	人間学部　教授　新福　悦郎
曜日／時限	火曜日 4時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　学習指導要領の小学校社会科の内容構成に関連する社会的事象を映像などを通して学習することで、より深い学びを追究させ、理解させる。また、小学校における優れた授業実践の事例を紹介し，社会科の授業づくりや分析の方法を具体的に学習指導案との関連から習得させていく。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
　テ ー マ：社会科の目標・内容構成の理解と基礎的な知識・技能の習得
　到達目標：
　学習指導要領との関連からその目標と内容構成について理解すると同時に，教育現場で実際に授業を担当するために必要な基礎的な知識・技能の習得を目標とする。

[授業の方法]
＜授業形態＞
　演習的要素の多い講義

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）　オリエンテーション，社会科の教材研究の視点（文献、新聞、映像）
（2）　戦後の日本社会の歩み（歴史的分野）
（3）　高度経済成長期の日本の社会状況（歴史的分野）
（4）　裁判のしくみと冤罪（公民的分野）
（5）　市民による司法参加と裁判員裁判（公民的分野）
（6）　小学校社会科の授業事例の紹介と分析－（あたたかい土地の暮らしとしての沖縄）
（7）　小学校社会科の授業事例の紹介と分析Ⅱ－（公害と環境問題）
（8）　第2次世界大戦と人々の暮らし（歴史的分野）
（9）　太平洋戦争と平和学習（歴史的分野）
（10）　日韓の関係史（地理的分野）
（11）　日韓の関係史（歴史的分野）
（12）　ハンセン病問題を通した社会科人権学習
（13）　人権教育と小学校社会科
（14）　安全教育と小学校社会科
（15）　本講義のまとめ

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　レポート発表、授業時のグループ討議

＜課題に対するフィードバック方法＞
　リアクションペーパーについては次の授業までにIn　Campusで評価をつけて返却する。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
　教 科 書：小学校学習指導要領及び小学校学習指導要領解説社会編
　参考書等：各社の教科用図書、適宜参考図書や資料を紹介

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　試験を実施。
（2）試験以外の評価方法
　リアクションペーパー（6回ほど）、授業内のレポート発表（各自1回）
（3）成績の配分・評価基準等
　授業でのレポート発表（20％）、テスト（40％）、リアクションペーパー（25％）、授業中の取組（15％）

履修上の留意点

＜準備学習＞
事前学習：各自のテーマに関わる資料を収集調査し、A3　1枚のレジメにまとめ、全員分の資料を印刷して発表できるように準備しておく。（2時間）

　事後学習：学習内容について、授業を通して感じ考え学んだことについてリアクションペーパー（400字以上）にまとめる。（2時間）

＜他科目との関連＞
　小学校教諭免許取得のための教職関連科目である。3年次前期の初等教科教育法社会とつながる科目である。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館2階（3211号室）
メールアドレス：shinpuku@isenshu-u.ac.jp

その他

＜オフィスアワー＞
　月2，3限　場所：研究室3号館2階（3211号室）

（実務経験のある教員による授業）
中学校社会科教員としての実務経験を活かし、実践的な授業における社会科認識や指導、技術習得も含めた観点から講義を行う。

科目名	教育方法論
職名／担当教員	人間学部　教授　新福　悦郎
曜日／時限	火曜日 5時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業の概要＞
　幼稚園、小学校において実際に指導を行う際に必要な実践的知識・技能の習得を第一の目的とする。発達段階と幼稚園教育要領と小学校学習指導要領に示された教育の目標と内容を踏まえた上で、授業の様式や歴史、指導の原理や効果的な発問や板書といった具体的な指導技術、指導や授業展開の実際、有効な教材や新しい教育メディアを利用した指導、教育評価の方法、学習指導に関する理論の変遷などについて学ぶ。また、教育方法・技術に関する幼・小の連続性、発展性、一貫性、それぞれの特異性、独自性についても学習する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
　教育現場で実際に授業を担当するのに必要な基礎的な知識・技能の習得を目標として、「教師としての姿勢」と「教育技術の習得」を実践的に学ばせる。
　具体的な目標としては、
1　教育方法学とは何か，その基本的な概念を理解し、指導方法や技術の基礎基本を身につけ、実際の授業展開が出来るようにする。
2　最新の研究の成果を通してカリキュラムや授業や学びについて認識を深め、指導者としての発問、　板書，タイミングなどについても検討し、ICT活用などの具体的な指導技術についても身に付けさせる。
3　授業は教師の生命でもあるので、基礎基本を徹底すると同時に実践と討論によって、教育方法と技術の基本を身に付け、教師としての資質・能力を磨いていく。

［教育の方法］
＜授業形態＞
　板書を活用しながら、講義形式ですすめる。
　配布印刷物を各授業テーマに沿って読み、グループワークを行う。

＜授業計画＞
【対面科目】
第1回：ガイダンス，授業と学びの世界へ
第2回：教室の風景－変貌する教室
第3回：授業の歴史（欧米編）
第4回：授業の歴史（日本編）
第5回：3つの学習理論の理解
第6回：協同的な学び
第7回：教室のジレンマと授業のデザイン
第8回：教材の工夫一判決書教材の活用（いじめ）
第9回：特別なニーズと学級づくり
第10回：不登校支援の方法
第11回：　特別なニーズと学級づくり・授業づくり
第12回：ICT活用教育の可能性
第13回：ICT活用～教育機器と方法（情報端末・デジタル機器・インターネット）
第14回：専門家としての教師
第15回：本講義のまとめ及び評価

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　ペアやグループでの討議。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　提出したリアクションペーパーに対して評価をつけて次の時間に返却します。

教科書／参考書

＜教科書＞特になし、資料を配付する。
＜参考書＞　佐藤学『教育の方法』（放送大学叢書）、　山下政俊・湯浅恭正編『新しい時代の教育の方法』（ミネルヴァ書房）

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　　試験を実施する。
（2）試験以外の評価方法
　　リアクションペーパー（14回分）
（3）成績の配分・評価基準等
　　試験を実施（45%）、リアクションペーパー（40%）、授業中の取組・貢献度（15%）

履修上の留意点

　＜準備学習＞
　　事前学習：テーマに関する資料を自分なりにリサーチし、事前に読んでくる。（2時間）
　　事後学習：授業中に指定されたテーマで、400字以上のリアクションペーパーを書き、In　Campusで提出すること。（2時間）

＜他科目との関連＞
小学校・幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための教職関連科目である。

担当教員へのアクセス

質問がある場合は、3号館2階　3211研究室へ直接訪ねるか、shinpuku@isenshu-u.ac.jp　まで連絡すること。

その他

オフィスアワー
時間帯：月曜日２、３限
場所：研究室3号館2階３２１１号室

（実務経験のある教員による授業）
中学校教諭としての実務経験を活かし、授業づくりや指導法について教育方法の観点から講義を行う。

科目名	教育相談の理論と方法
職名／担当教員	人間学部　兼任講師　樋口　広思
曜日／時限	木曜日 1時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
学校における課題に対する教育相談は重要な支援活動の一つとなっている。そのことを踏まえ、教育相談の基盤となるカウンセリングに関する知識や理論、方法などを学ぶ。また、学校において生じやすい問題、およびその心理的社会的背景について理解するとともに、どのように支援を行っていけば良いかについても理解を深める。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：－
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：－
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
1.教育相談の意義と方法について理解する。
2.学校において生じやすい問題とその心理的社会的背景について説明できる。
3.学校において生じる問題への対応とその支援について説明できる。

[授業の方法]
＜授業形態＞
基本的に講義形式で実施するが、上記のようなロールプレイやグループディスカッションも取り入れながら理解を深める。また授業終了後にミニッツペーパーに記載してもらい、本時における学びと気づきについて振り返りを行う。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）教育相談とは何か
（2）教育相談とカウンセリング
（3）教育相談とクライエント中心療法
（4）カウンセリングの基礎技法
（5）児童生徒の発達と教育相談
（6）保護者支援の教育相談
（7）非行行動と教育相談
（8）問題行動と教育相談
（9）児童虐待の理解
（10）児童虐待の対応
（11）不登校の理解
（12）不登校の支援
（13）いじめの構造的理解
（14）いじめ被害者加害者への支援
（15）授業内テストおよび総括

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
カウンセリングの基礎技法に関しては簡単なロールプレイを実施し理解を深める。また、授業と関連する時事的な話題をテーマに、適宜グループディスカッションも取り入れる。

＜課題に対するフィードバック方法＞
授業終了後に記載してもらうミニッツペーパー回収後、質問や大事な気づきについては取り上げ、解説を行う。

教科書／参考書

＜教科書＞
書名：「心理臨床の育み」、宮前　理　編、出版社：八千代出版、発行年：2020年
＜参考書＞
生徒指導提要　文部科学省　令和4年
また、毎回資料を配布し、適宜参考書も授業時に紹介する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　試験を実施する。試験は、講義で得た知識をもとに、与えられたテーマについて論述するような内容を主とする。
（2）試験以外の評価方法
　毎時、ミニッツペーパーにより学習の理解度をはかる。
（3）成績の配分・評価基準等
　試験の評価に加え、ミニッツペーパーによる学習の理解度や授業への貢献度等を総合的に判断し、評価する（試験60%、毎時のミニッツペーパー30%、授業への貢献度10%）。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：毎回の授業前に、教科書等を熟読し、わからない点を整理して授業に臨むこと（60分）
事後学習：わかったこと、わからなかったことを整理し、教科書、配付資料やノートにより授業で得た知識の確認をすること（60分）
＜科目の位置づけと他科目との関連＞
児童期における心理的問題や基礎的なカウンセリングの方法を学習するので、事前に「教育心理学」や「発達心理学」、「臨床心理学概論」などの科目を履修していることが望ましい。

※新型コロナウィルス感染状況などを鑑みてオンデマンドで実施する可能性がある。その際は適宜in Campusを用いて連絡をする。

担当教員へのアクセス

in Campusを通じてご連絡ください。

その他

＜実務経験のある教員による授業＞
スクールカウンセラー、臨床心理士としての実務経験を生かし、教育相談の対象や役割について具体的に講義するとともに、カウンセリングの基本的な方法についてロールプレイ等を用い実践的に教育する。

科目名	専門教養演習
職名／担当教員	人間学部　特任教授　奥山　勉
曜日／時限	金曜日 1時限
期　間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　本演習では、保育・教職について職務の実際、保育や指導等の内容、ならびに現状と課題などについて担当教員や現場指導者の指導のもと、学生自らがテーマを設定し、調査・研究したり、実際に就労体験を行ったりする。また、その成果を発表することをとおして保育・教育に関する実際的・実践的な理解を深めるとともに、今後の幼児教育実習や初等教育実習に生かせるようにする。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識〔知識・理解〕：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力〔汎用的技能〕：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢〔態度・志向性〕：☆
④創造的思考力と研究遂行能力〔統合的な学習経験と創造的思考力〕：☆
〔☆：関連するもの、ー：関連しないもの〕

＜到達目標＞
（1）保育・教職の現状と課題について理解することができる。
（2）教職体験を通して自らテーマを設定し、調査研究した成果を発表することができる。

[授業の方法]
＜授業形態＞
　保育、教職の現状と課題、体験の事前指導については、パワーポイントや資料を活用しながら講義形式で進める。教職体験は、希望した小学校・幼稚園・保育所で行う。調査研究はグループで行い、その成果を発表する。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス：専門教養演習の内容と見通し（奥山　勉）
（2）学校教育の現状と課題（奥山　勉）
（3）いじめの現状と対応（横江信一）
（4）不登校の現状と課題（奥山　勉）
（5）特別支援教育について（佐藤正恵）
（6）保育の現状と課題（高橋有香里）
（7）家庭支援（小玉幸助）
（8）気になる子どもの理解と支援（大道一弘）
（9）幼保小の連携の必要性（永山貴洋）
（10）教育法規：法の体系（高橋寛人）
（11）教育法規：きほんのき（笹原英史）
（12）震災遺構見学事前指導（新福悦郎）
（13）震災遺構見学（新福悦郎）
（14）インターンシップ事前指導（奥山　勉）
（15、16）インターンシップ①（奥山　勉）
（17、18）インターンシップ②（奥山　勉）
（19）インターンシップ振り返り（奥山　勉）
（20）調査・研究①：テーマ設定の理由について（奥山　勉）
（21）調査・研究②：研究目標について（奥山　勉）
（22）調査・研究③：情報収集について（奥山　勉）
（23）調査・研究④：まとめと考察について（奥山　勉）
（24）調査・研究発表準備（奥山　勉）
（25）調査・研究発表①：小学校（奥山　勉）
（26）調査・研究発表②：幼稚園・保育所（奥山　勉）
（27）小学校実習報告会への参加（奥山　勉）
（28）幼児教育実習報告会への参加（奥山　勉）
（29）「人間教育研究基礎」の説明と所属について（奥山　勉）
（30）専門教養演習のまとめと振り返り（奥山　勉）

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
・グループワークとグループ発表を行う。

＜課題に対するフィードバック方法＞
・レポートにコメントを記入し返却する

教科書／参考書

＜教科書＞
「なし」

＜参考書等＞
「改訂版　知のツールボックス」専修大学出版企画委員会編　専修大学出版局

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　・試験は実施しない

（2）試験以外の評価方法
　・見学や体験発表、実習報告会のまとめでレポートを作成（4回）

（3）成績の配分・評価基準等
　・4回のレポート内容や発表、平常の学習状況により総合的に評価する。
　（レポート40％、発表40％、取組状況20％）

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：この科目は演習形式で行われるので各学生が積極的に授業に参加するとともに、保育・教職について深く理解する必要がある。従って、常に課題意識をもって取り組むことが大切である。そのために、指定した内容について事前に調べておくこと。（2時間）

事後学習：演習後小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、どの道に進むかを考えておく。(2時間）

＜他科目との関連＞
1年次で学習した「保育・教育研究」を踏まえ、3年次の「人間教育研究基礎」につながる科目である。

担当教員へのアクセス

″研究室：3号館2階3212号室
メールアドレス：okuyama@isenshu-u.ac.jp″

その他

オフィスアワー
　授業内容に関する質問は、授業中および授業終了時に随時受け付ける。

（実務経験のある教員による授業）
　教育現場での実務経験を活かし、保育・教職の現状と課題を踏まえた観点から演習を行う。